

この街が  
好きだから

大須賀一雄

武蔵野スケッチ物語

④2



見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。  
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

## 桜堤二丁目付近

今回の作品は、玉川上水沿いの小路で、紅葉を愛でながら描いたものである。

ここで、玉川上水について触れてみたい。この水路の開削工事は、諸説あるが、一六五三年四月に着工、翌年十一月に羽村から四谷大木戸間が通水、その後四水路に分流されて江戸市中に給水されたと云われている。

このような短期間に、すぐれた技術で、高低差わずか百メートルの水路を完成させたことは、土木工事の偉業と讃えられている。工事は困難を極めたため、幕府からの資金が底をついてしまい、工事担当者である庄右衛門と清右衛門の兄弟は、家を売って費用にあてたと聞く。この功績により、二人は幕府から玉川姓と帯刀を許された。

私は、時折り玉川上水の橋を渡るが、その際川面を目にするたびに、水路を造った人々の苦労が偲しのばれ、胸が熱くなる昨今である。

(絵と文 大須賀一雄)

大須賀一雄 (おおすかかずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。